

KLIS TODAY

No.
34

筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類

〒305-8550 つくば市春日 1-2 Tel 029-859-1110 Fax 029-859-1162

URL <https://klis.tsukuba.ac.jp/> E-mail klis-info@inf.tsukuba.ac.jp

2019 年度から始まる新しい学群教育について

池内 淳

2019 年 4 月 30 日をもって平成も終わり、5 月 1 日から元号が変わりますが、筑波大学でも 2019 年度から新しい学群教育が始まります。

これまで、筑波大学では、幅広い学問的視野に基づく高度な問題解決能力を涵養するため、「関連科目」や「総合科目」などの自身の専門分野以外の学問分野の科目を学修することを制度化してきました。

2019 年度から始まる学群教育においても、こうした理念を踏襲しつつ、新たに「専門導入科目」というカテゴリを設け、関連科目をより体系的に履修できるようにすることで、学士課程における教養教育を一層充実したものにすることを目指しています。

この新しい学群教育の目的としては、以下の四点が挙げられています¹⁾。

- ・複数分野にわたる広い視野を育てる。
- ・様々な学問分野の中で自分の主たる専門の位置づけを理解させる。
- ・多様な学生と接する機会を増やす。
- ・学ぶ分野を自ら選ぶ中で学修意欲を高める。

具体的には、自身の専門分野以外で、他学群・他学類の開設する専門導入科目などの科目を卒業までに 6 単位以上履修しましょうという制度として実現化される見込みです。

また、これまで、知識情報・図書館学類では、外国語や体育などの「共通科目」については筑波キャンパスの中地区と南地区で、学類固有の専門基礎科目や専門科目については筑波キャンパスの春日地区で受講することが基本でしたが、2019 年度からは、1 年次は主に中地区・南地区で大半の科目を受講し、2 年次から春日地区がメインになる見込みです。

この新しい学群教育制度によって、新入生のみなさんの学生生活がより一層充実したものとなることを期待してやみません。

1) 筑波大学アドミッションセンター, 2019 年筑波大学入学案内

(いけうち・あつし 知識情報・図書館学類 准教授)



知識情報・図書館学類の授業紹介

在学生が、知識情報・図書館学類の人気授業を紹介します！

知識情報概論（担当：宇陀則彦准教授）の紹介

亀山 恵、野原 愛莉



ご担当の宇陀先生

知識情報概論とは、知識情報学の概念について学ぶ講義です。皆さんは、「知識とは何か」について考えたことがありますか？この授業では、知識について深く考え、一人一人が自分なりの答えを見つけていきます。授業の内容は、1 年次では理解できなくても、年次が上がるにつれて理解できるようになるはずです（たぶん…？）。先生の個性的かつ芸術的な絵とともに、楽しく学ぶことができます。テストは記述式なので、資料をよく読み、先生のお話はよく聞いておいたほうがいいですよ（経験談…）。授業時間が余ると、〇〇概論になるかも…？（ちなみに、今年はサッカー概論でした。）楽しみにしててください！ Let's share knowledge with your teacher!

（かめやま・めぐみ、のはら・あいり

知識情報・図書館学類 1 年次）

知識情報演習 I-2（後半担当：鈴木伸崇准教授）の紹介

土屋 寛真



ご担当の鈴木先生

知識情報演習 I は全 10 回の授業が 2 つに分かれていて、前半は専用の演習ソフトウェアを使った書誌レコードの作成、後半は Ruby と呼ばれるプログラミング言語を駆使して OPAC の構築に取り組みます。あまりに内容の異なる演習がテンポよく進んでいくことにビックリしました。私は理系出身でプログラミングには慣れていたので後半の演習は余裕を持って楽しく進めることができましたが、前半に苦しんだ思い出があります。しかし周りには境遇が真逆な人もいて、文系出身の人にとっては後半のプログラミングが辛そうでした。しかし、みんなが長所として持っている知識を提供し合いながら授業全体を無事に乗り切ることができました。

（つちや・ひろま 知識情報・図書館学類 4 年次）

情報社会と法制度（担当：石井夏生利准教授）の紹介

川畑 孝平、増田 果穂



ご担当の石井先生

情報社会と法制度では、情報化社会、ネットワーク社会における法制度について、基礎的なことを一から学ぶことができます。具体的には憲法、民事法、刑事法等の様々な法律を取り扱った講義が行われます。法律の内容を学ぶほかに、図書館に關係する法律や、サイバー犯罪やインターネット上の民事的トラブルなどの事例を元にしてそれらに対応する法制度も学びました。また、授業内でのグループワークを通じて友人とともに身近に起こりうる法律問題について議論する機会があり、法律そのものやコンプライアンスへの理解も深まりました。授業を通して法的な知識を身につけ、理解を深めたことは、今でも情報モラルの向上に役立っていると思います。

（かわばた・こうへい、ますだ・かほ
知識情報・図書館学類 4 年次）

図書館概論（担当：吉田右子教授）の紹介

福嶋 一菜、有林 沙央、小野寺 晃汰、坂本 遥彦、佐藤 祐悟、中村 沙彩



ご担当の吉田先生

図書館概論では日本だけでなく、海外の様々な国の図書館を参考に、図書館や司書についての特徴、図書館を取り巻く諸問題について学びました。図書館好きにとっての「図書館像」でさえ崩されるほど魅力的な諸外国の図書館について教えていただきました。例えば、授業の中で「国境なき図書館」という団体が紹介されました。図書館という施設の壁だけでなく、国境という壁も超えて自由に空間展開できる図書館があるという事実はとても魅力的でした。このような諸外国の魅力的な図書館について学ぶ中で、「日本の図書館はどうしていきべきなのだろう？」とより一層考えさせられ、今は LiFA (Library For All) という企画名で、図書館に関する企画を雙峰祭に出そうと計画しています。

（ふくしま・かずな、ありばやし・さお、おのでら・こうた、
さかもと・はるひこ、さとう・ゆうご、なかむら・さや
知識情報・図書館学類 1 年次）

人工知能と知識

若林 啓

私が大学 2 年生の頃、上級生向けに開講されている人工知能に関する授業に潜り込んで、先生に「今の人工知能はどこまで進んでいるのですか」と聞いたことがあります。先生の答えは「今できることはデータをパターンに沿って分類することぐらい。君が思っているような知能は実現できていません。」という趣旨の答えだったと思います。

ところが最近、インターネットやテレビなどで「人工知能」という言葉をよく聞くようになりました。「人間の能力を超えた」や「人間にしかできないと思っていたことがコンピュータにもできるようになった」というニュアンスがこめられていることもしばしばです。現在話題になっている人工知能の多くはニューラルネットワークと呼ばれる手法に基づいて動いており、この手法ができることは基本的に「データをパターンに沿って分類すること」です。最近は大規模なデータを処理できる計算機環境が整ったことで、より複雑なパターンを扱うことができるようになりました。量の変化が質の変化となり、あたかも知能を持ったように見えるようになったのです。

一方で、そのような機能を「人工知能」と呼ぶことについては、実は様々な議論があります。ニューラルネットワークに何かを見せると、それらしい答えが返ってきますが、なぜその答えを導いたのかは説明できません。パターンに反応するだけのそれを「知能」と呼んでいいのでしょうか？ 人間は学習の結果「知識」を獲得しますが、ニューラルネットワークがパターンを学習した結果を見てみると、そこには大量の数値が並んでいますが、それ単体では知識とは呼べないでしょう。では人間の持っている「知識」とは一体なんなのでしょう？

この問いは、知識情報・図書館学類の中核をなすテーマです。本学類では、知識の本質から、その使い方、伝え方、表現の仕方、解釈の仕方などを多様な視点で学ぶことができます。「知識」に関して広い視野とスキルをもつことは、情報が溢れる今の時代にはもちろん、「人工知能」と関わって生きていくこれからの時代において、一層本質的な役割を果たすと思います。これを読んでいる若い皆さんにも、是非高い志をもって学びの道を歩んで頂きたいと思います。

(わかばやし・けい 知識情報・図書館学類 助教)